

宇治・開浄水場休止問題

住民側、作業阻止へ監視

市は「水道切り替え」通知

宇治市の開浄水場を休止させる方針の市と、存続を求める住民とが対立している問題で、市は21日までに、同日深夜から22日未明にかけて休止し、府営水道への切り替えを実施すると住民に通知した。住民側は21日夜に決起集会を開き、市が作業できないように浄水場周辺の水道管の検などを監視する態勢に入った。



住民側が開いた決起集会＝宇治市開地域福祉センターで

集会は午後8時半から開地域福祉センターであり、住民や支援者約60人が参加。佐正和寛・開地区自治連合会長が「市の市職員を住民が取り囲んだり抗議し、市は作業を断る。市が休止作業に着手するのは07年6月以来。このときは現場に到着した市職員を住民が取り囲んで抗議し、市は作業を断る。」と述べた。

開浄水場からの水を止めて府営水道へ切り替えるには、浄水場とは別の場所にある水道管の検を操作する必要があり、このため住民側は、7カ所に分かれて水道管を監視。市側が到着すれば、作業の中止を求めることとしている。

開浄水場からの水を止めて府営水道へ切り替えるには、浄水場とは別の場所にある水道管の検を操作する必要があり、このため住民側は、7カ所に分かれて水道管を監視。市側が到着すれば、作業の中止を求めることとしている。

2006年12月、井戸の水質悪化を理由に休止を決めたが、井戸水を飲み続けたいと住民が反発。今年10月、住民ら3人が休止の差し止めを求めて京都地裁に提訴した。